

第3章 佐賀市が目指す将来の環境の姿

1 環境将来像

本市には、山から海までつながる豊かな自然環境が生活の身近に存在し、古くからの歴史や文化を感じられる快適な生活環境があります。この良好な環境を未来に引き継いでいくためには、市民・事業者・行政が環境面での将来像を共有し、一体となって環境保全を目指した様々な取組を行っていくことが大切です。

第3次佐賀市総合計画では、2040年の将来像を『佐賀らしさでみんなが上を向くまち』とし、その環境分野の目指す姿として『豊かな自然に包まれ、人々が心地よく暮らすまち』を掲げています。

本計画では、本市の経済・社会を支える基盤である『佐賀の自然の特徴』をより具体的に表現した環境将来像として、次のとおり定めます。

佐賀市の環境将来像

みんなで創り育む トンボ舞う みどり豊かなまち さが

□ みんなで創り育む

人口が減少するなか、環境問題は複雑化・深刻化しており、地域の持続可能性を維持・向上させるためには、行政機関・市民・事業者等、地域のあらゆる主体が協働で取り組んでいく必要があります。

本市では、河川清掃をはじめ、東よか干潟の保全活動など、多くの市民・事業者が環境保全に参加しており、協働の取組が展開されてきました。

今後も、みんなで創る・育むことを基本的な考えとし、持続可能な環境を保全・創出していきます。

□ トンボ舞う

トンボは水中や水辺の植物等に卵を産み、幼虫時代は水中で過ごします。そして、幼虫から脱皮し、成虫になる時に陸上に移動します。トンボの種類のはなは、自然のはなは(生物多様性)をはなは「物差し」になります。

日本有数の稲作地帯である本市は、田んぼや、河川、農業用水路(クリーク)など、多様な水辺環境を有しており、かつては、様々な種類のトンボを見ることができました。

現在では、農地の宅地化、生活様式の変化、事業活動の拡大及び気候変動の影響など、様々な要因により、トンボの種類・数が減少しています。

本市では、良好な水辺環境のシンボルとして「トンボ」を掲げ、1989年度(平成元年度)から「トンボ王国・さが」づくりを進めています。本市を特徴づける豊かな自然を保全し、良好な水辺環境のシンボルであるトンボが舞う姿をいつまでも見られるまちを目指します。

□ みどり豊かなまち

本市は、北部の脊振・天山山系に囲まれた森林、南部に広がる佐賀平野、街なかの街路樹や公園など、市域全体にみどりが広がっています。

みどりは私たちに安らぎを与えるだけでなく、生物の生息環境、木材の供給、水資源の貯留、洪水の緩和など、様々な機能を有しており、私たちの生活を支えています。

みどりを保全することで、自然豊かで、安全安心な環境を維持・創出していきます。

2 地域ごとの将来の姿

本市では「第3次佐賀市総合計画」において、中心拠点・地域拠点や各種ゾーンを設定しています。本計画ではこれらを基に4つの地域ごとの将来の姿を次のとおり定めます。

●都市ゾーン

- ・都市はコンパクトに集約され、居心地がよく歩きたくなるまちが実現しています。
- ・街なかを走る車は、EV や FCV*等の次世代自動車*へ移行しています。
- ・街なかの河川や農業用水路(クリーク)は、都市の貴重な自然として、多くの市民に愛され利用されています。
- ・神野公園とんぼ池では、家族連れや子どもたちでにぎわい、多くのトンボが飛び交う姿がみられます。
- ・事業所や住宅には、太陽光発電及び蓄電池等の再生可能エネルギーの導入が進んでいます。
- ・ビルや事業所には、屋上緑化や壁面緑化が施され、都市部の気温上昇を緩和しています。
- ・住宅の建設には積極的に地元産材が活用され、森林のライフサイクルがたもたれています。
- ・ボランティアによるごみ拾いや河川清掃が行われています。



●田園集落ゾーン

- ・水田をはじめとする農地やため池、農業用水路(クリーク)は、淡水魚やトンボ、植物など、多様な生物の生息・生育の場になっています。
- ・佐賀平野を中心に生息しているカササギは、カチガラスの愛称で市民に親しまれています。



●山村集落ゾーン

- ・森林浴や散歩、自然と触れ合う様々な体験活動など、多くの人々に森林が利用されています。
- ・森林の多面的機能の重要性が広く認識され、様々な人々が森林管理に関わっています。その一環として、自然災害に強い森林づくりが行われています。
- ・エリートツリー*等の成長に優れた苗木が活用されています。



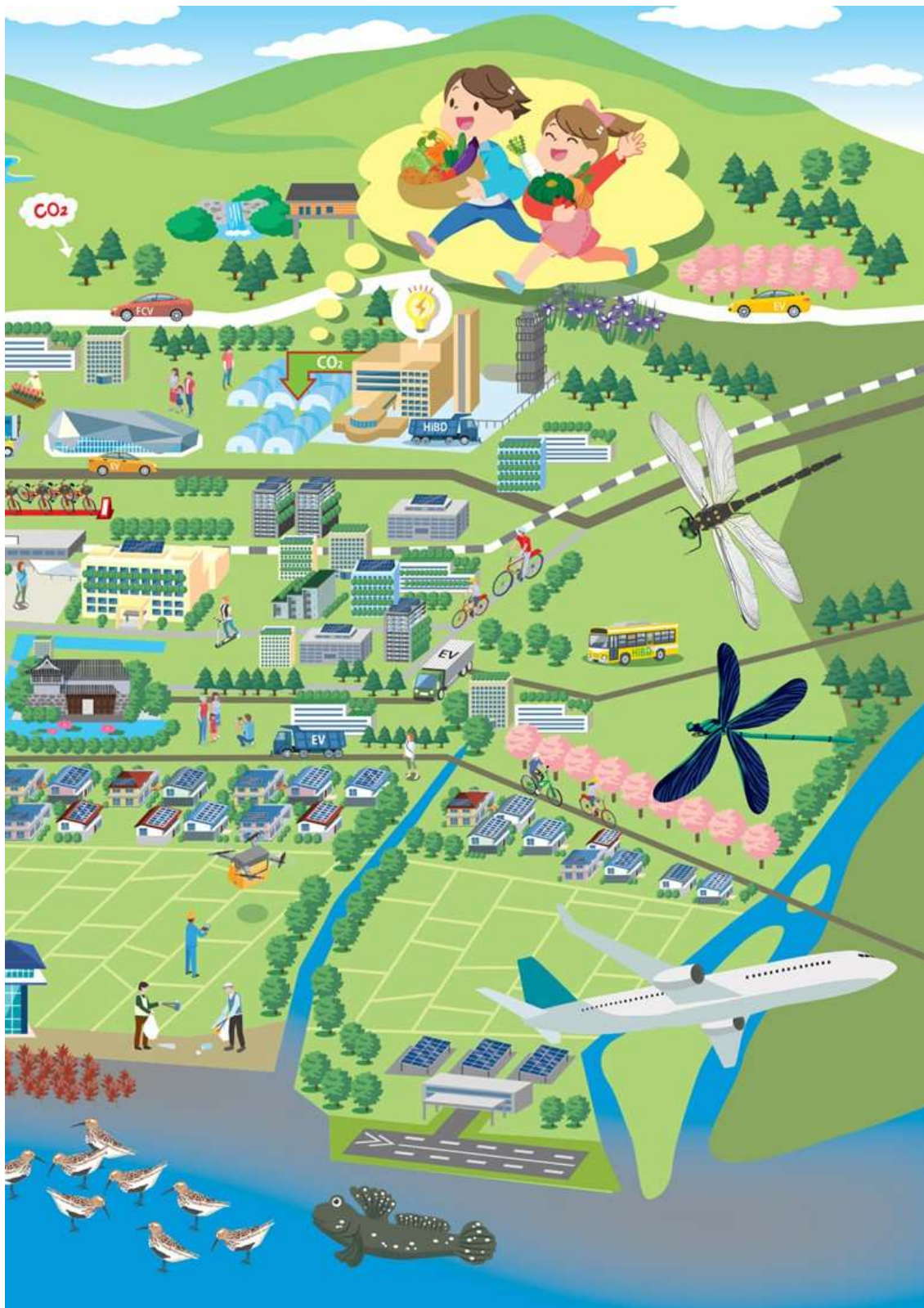
●有明海沿岸ゾーン

- ・干潟には、シチメンソウなどの植物や、ムツゴロウやワラスボなどの希少な水生生物やシギ・チドリ類をはじめとした渡り鳥など、多種多様な生きものがみられます。ノリ養殖を営む人々の生活が感じられる里海の景観が広がっています。
- ・海岸清掃活動に参加するボランティアの姿がみられます。



ーク)や田園、干潟が広がる有明海など豊かな自然に恵まれた地域です。一方で、地球温暖化問題や廃棄代でもあります。

幸福度等の向上や循環共生型社会、脱炭素社会、ネイチャーポジティブ等への取組が求められます。



トンボ

●ミヤマアカネ



日本で最も美しい赤トンボと言われていいます。翅に褐色の帯を持ち、飛ぶ時に帯が輪を描き美しい姿が見られます。

●アオハダトンボ



外見的特徴としてはオスの翅が濃い青色をしており、体は全体的に金属的な光沢を持った青緑色です。

●オニヤンマ



体長は約 10 cm で、黒色の地に黄色の縞模様が入っており、頭の部分にある複眼が緑色で左右の眼がくっついてい

野鳥・生きもの

●カササギ(カチガラス)



黒いカラスに比べてひと回り小ぶりで、胸とお腹が白いのが特徴です。

●クロツラヘラサギ



大型の白い水鳥で、ヘラのような長い嘴を持っています。冬鳥として、日本に越冬にやってきます。

●ダイゼン



全体的に灰色をしています。夏羽は銀色と黒色の斑模様をしており、お腹は黒いです。一方、冬羽は灰褐色の羽毛に白い斑紋が入り、お腹も灰褐色になります。

●ハマシギ



全体的に灰色をしています。繁殖期の夏には頭から背中にかけて赤味がかかった褐色になり、お腹から足の付け根が黒くなります。冬になると全身が淡い灰色になりお腹も真っ白になります。

●シオマネキ



オスの片方の鋏がとて大きくなるのが特徴です。体長は、約2cm~4cmの小型カニで、体は薄い赤色をしています。

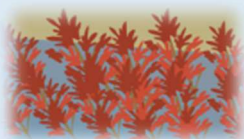
●ムツゴロウ



体は暗灰色で、頭、体、鱗に青く輝く斑点が散在します。眼は突出し、眼下に眼を収納するくぼみがあります。河口に広がる軟泥干潟に巣穴をほって生息します。

植物

●シチメンソウ



高さは 20cm~40cm 程度で、葉っぱがこん棒状に枝分かれして伸びた独特の形をしています。満潮時に潮をかぶり干潮時には干潟になる環境で生育する貴重な塩生植物です。

●エヒメアヤメ



草丈は7cm~10cm で、春先に直径4cmほどの紫色の花を咲かせます。久保泉町帯隈山山麓に自生する、希少な植物です。